

輝く!

山村の女性たち

NPOで本格的 森林整備に従事

たきぐちあけみ
瀧口朱実さん

(三重県四日市市)



瀧口朱実さん

今回は、NPO『森林の風』の会員、瀧口朱実さん（58）を紹介します。

朱実さんは石油コンビナートや化学工場のプラントが立ち並ぶ四日市港から10kmほど内陸に入った丘陵地の住宅地にお住まいで、ご主人の邦夫さん（60）と一緒にNPOとして森林整備活動を展開しています。しかし、10年ほど前までは林業には縁のない生活を送ってきたそうで、「登山やスキーに行くことはあったから、何となく山とか自然とかには興味があった」と話します。

■森林整備活動への入口

林業とは縁遠い生活を送っていた朱実さんがボランティア活動に興味をもったのは、当時勤めていた会社の先輩から介護の資格を取ってボランティア活動を始めた話を聞いたことがきっかけで、「自分も何か社会の役に立つようなことがしたい」と考えるようになりました。そして、三重県伊勢市で開催された『環境フェア』に足を運び、森林ボランティアの存在を知り、介護の仕事は続かないかもしれないけれど山の仕事ならやれるかもしれない、と感じたそうです。

これを機に、イベント会場で知り合った『鎮守の森を夢見る会』代表の藤田雅子さんに誘われ、自宅から車で1時間以上かかる三重県津市美杉町まで出向き、森林整備の活動に参加するようになりました。初めは、月に1～2回程度の活動でしたが、そのうちご主人と一緒に地元の鈴鹿森林組合が主催する研修会や様々な勉強会にも参加するようになり、少しずつ森林整備の活動にハマっていったそうです。

■『NPO法人 森林の風』の誕生

そして、平成17年9月にこれらの活動で知り合ったメンバーが集まり、『NPO法人 森林の風』を設立することになりました。

務めていた会社を早期退職してNPO活動に没頭していくご主人とは対照的

に、朱実さんはNPOとして本格的に森林整備活動を展開することに当初はためらいがあったそうですが、ご主人に「入りたければ入ればいい」と言われ入会を決意しました。しかし、しばらくしてそれまで会を支えてきた奥田会長が体調を崩して現場に出られなくなったのを機に「少しでも会長に代わってできることがあれば…」と朱実さんもチェーンソーを使うようになり、活動回数も増えていきました。

現在では毎日のように山に入り、チェーンソーを使いこなすようになりましたが、「私は無理と思ったら伐らないの。男と女では体力の違いがあることを実感します。怪我してまでもやらなければならないことではないし、任せることも大切」と言います。また、週1回は休みの日を作って自分の趣味を楽しむ時間を作るなど、マイペースに無理のない姿勢で活動が続けているようです。

■NPO活動としての森林整備

今までに会として合計40ha程のフィールドで森林づくりに携わってきたそうです。特に思い入れのあるのは、三重県津市白山町にある区有林で、「たくさんのことを学ばせてもらったし、何の実績もない私たちにフィールドを開放してくださった区長さんに感謝しています」と、土地所有者との信頼関係の大切さを話してくださいました。

一方、会の運営には資金が必要ですが、有償のNPO活動に対する理解はまだまだ乏しく、「NPOは国から補助金もらっているんだから…」と言われることもあり、そんな時は「NPOは税金を払っているのよ」と言いたくなるそうです。

現在、あらゆる助成金や補助金制度を活用しながら、CSR活動に積極的な企業からの協力を得られるよう手を尽くしているものの、会の資金運営は常に厳しく、「山をきれいにしたい熱い思いで活動資金を捻出している」と話していました。

■若い活動家へのエール

現在、『森林の風』として平日に活動しているのは会社を退職した60代のメンバーが主ですが、30～40代の若手のメンバーも仕事の合間を利用して月に2～3回は活動に参加しています。「若い人たちには今の活動を続けてほしい」と思う一方で、「やる気のある若い人たちに林業従事者になるよう勧めても、経済的な裏付けのない今の林業の状況では、そこまで腹をくくれる人がいない」とも感じているようです。

「山や森林に対して熱い思いを持っている若い人たちを育てていきたい」と話す朱実さんは、ご主人の、そして『NPO法人 森林の風』のサポーター役としてその活動を支えています。

本田美香（三重県四日市農林商工環境事務所森林・林業室林業振興課技師）

※このコーナーは「豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク21」の会員が担当します。